

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム みらい
日付	平成18年3月31日 特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	認知症高齢者建物施設設計 16年、認知症介護専門指導員
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 徒歩5分以内にスーパーマーケットや郵便局・銀行その他のお店が立ち並び、西ふれあいセンターも隣で、カルチャー教室等へも参加出来るという絶好の立地の中にある。しかも、ホーム周辺は以外に静かで、敷地内の広い菜園や花壇は利用者や友人、近隣の人達、職員の手入れできれいに整備されている。利用者の状況に合わせて、生き生きした生活を楽しんでいる様子が伺える。 勿論、ホームの中での暮らしもお母さん役の さんは休む間も惜しむかのように台所で立ち働く姿が昨年同様見られた。家庭で生活していた頃の習慣や、本人が大切にしていた事、その人の生き方を尊重しようとする職員の努力があちこちで見られた。この事実は、利用者の心身の機能維持にも大きく影響している。「 さん、昨年とちょっと変わらず、お元気で…」と話しかけると「ええ、お陰様で、悪いのはココだけです」と頭を叩いて、みんなで大笑いとなる。ホームの明るさに、利用者、職員の明るさが加わって花が咲いたようだ。 リビングや各居室入り口等に飾られている写真やコメント、手作りの物は、職員の利用者に対する愛に溢れている。 さんは、訪問者の私にその写真を指差しながらいっぱいお喋りしてくれた。家族が見てうれしいだろう。 「介護する人ではなく、利用者のパートナー」として接している職員の心が利用者にも通じ合い、利用者も職員と一緒に明るくオープンな雰囲気をつくっているのだと感心した。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした グループホームが今直面している問題の一つに、若年性認知症の方や男性利用者の、ホームでの暮らしの中における生き甲斐や役割の問題があると思う。「改善の余地」と言うより、「お願い」といった表現の方がふさわしいと思うが、このホームでの取り組みをさらに発展的に深め、他のホームへも刺激を与えて欲しい。男性利用者一人ひとりが、見せかけてなく自分自身を發揮出来ている例はまだ少ないから、家族や地域とのつながりはとても良く出来ていると思う。この現状をうまくつないで「みらいだより」を発行したり、出来れば家族がリーダーシップをとる「家族会」にまで持っていけるよう考えてみて下さい。
Ⅲ ケアサービス(つづき)

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 私達がこのホームを訪問した時、 さんの娘夫婦に出会った。2～3日に一度は顔を見に来るといふ娘さんは、みんなの輪に交じって歌を唄い、娘婿さんは「もう誰かわからない様ですが、私もしょっちゅう来ます」といって、ホームの住人のようになっている。 家族の立場からグループホームを見ている私達からすれば、これこそ「理想的なグループホーム」と言えるのではないだろうか。よく訪問する家族が居る事も素晴らしい事だが、こんな雰囲気を保ち続けているホームの職員の心配りも嬉しい事だ。こんなホームが一つでも多くなって欲しいと願っている。 「基本的な事は決めるが、細かいは決めない。その時、その時の利用者の思いを大切にしたいから」と話す管理者の思いは職員はよく理解し、共有している。利用者本位が原則であるが、可能な限り、持てる力を最大限に發揮してもらおうとするたさんの仕掛けを見た。 会議の記録の中に「利用者の家族を招待して「あばあちゃんの家へ遊びに来たよ」って感じて、家族会ができたらいいな。」という内容を見た。是非実現させていただきたい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 「ゆったりとした空間の広さ、明るさも、このホームの特徴と言えます」と管理者の言葉通り、建物も、菜園や花壇が出来た敷地全体も広い。 それに加えて、歩いてすぐ行けるスーパーマーケットや銀行・郵便局・その他の店があるという事は、利用者の生活の幅を大きく広げ、「普通の人」として暮らす素地を備えている。 こういった最良の場の中にあるホームは珍しいくらいなので、今後も大いに活用して欲しい。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か その人の、かつての経験や今出来る事を職員は十分に把握していて、「職員も含めてみんな一緒にする」という暮らしがここに実現している。「一緒にしていただく為の声かけ」はとてもうまい。しかし、うまい職員の上手をいく93歳の人も居て、そのやり取りは漫才を聞くより面白い。思わず、93歳の方に拍手したくなる。職員をへこましたその人は、結局動かさずソファでニコニコしている。和やかな暖かい空気が、みんなを包み込んでいる。職員が自分の考えを押し付けるのではなく、その人の意志を尊重して潔く引き下がる様にも拍手したい。 「お世話になっているから」と職員に迎合したり我慢しているなど感じられる利用者にも他のホームでよく出会うが、このホームには自分の意思をきちんと伝えられる人が多い。良い雰囲気だな、と思う。この空気を大切に育て、自己決定や希望の表出の場を今以上に「形」にしつらえ、「主役場面」を増やすようにして欲しい。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か 開設してもうしばらく2年になろうとしている。「今、自分達が通常の仕事としてこなしている事が正しいか、本当に適切な判断が出来ているか不安になる事がある」と、あるスタッフは悩む。こういった感じ方や疑問は、サービスの質の原点となり、ホーム運営の基礎固めとなる3年目に向けた大切な視点となる。基本的に今の理念を押し進め、この姿勢のように常に話し合い、また、研修を積み重ねていただければ、素晴らしいホームに育つと思う。 職員の話からだけでなく、カンファレンス会議等からも、個別ケアの見直し、さらに良いケアに向けた提案等、積極的な姿勢が見られて、頼もしいなどとさえ感じる。何もかも実現していくのは現状では難しいので、具体的に実現可能な小目標を決めて「その都度の達成感を利用者共々、職員もしっかり味わい喜び合う」経験を積み重ねていって欲しい。 さんの家族の提案で「ミニ運動会」が実現し、家族も半数位参加したと聞く。こういった家族との関係は、他のグループホームも羨ましがっている状況だ。今の雰囲気をも更に大切にして「家族と共に築くホーム」に育って行って下さい。家族や地域社会の人等、多くの人が入り交じった風通しの良いホームはどんな問題が発生しても心強い。自信を持って、今のまま進んで素晴らしい「みらい」を築いて下さい。		